

# 土岐商NEWS



HP アドレス <http://school.gifu-net.ed.jp/toki-chs/>

## 土岐商業高校からの進路について

### 高校卒業後の進路は？

土岐商業高校では卒業生に占める就職の割合が約三割、進学が七割を占めています。本校に入学した段階で、就職か進学が決まらない生徒が数多くいます。自分の進路に迷っている生徒は本校で三年間過ごす間に、自分自身の進路について考え、研究し、自分の進路目標を立てます。そして目標に向けて努力し、進路実現をしていきます。

### 就職について

高校から就職する場合、企業から高校に向けて求人が出されます。その求人の中から生徒が希望する企業を選び、学校が生徒がどの企業の採用試験を受けるかを選択します。本校は商業高校なので、商業科目で学んだ内容が仕事で活かせる事務職や販売職などの職に就く希望を出す生徒が多いです。しかし近年企業が高

校生への事務職などの求人を控えるケースが増えているため、求人数が若干減少しています。しかし本校の卒業生の実力を評価していただいております。他校と比較してたくさんの事務職求人を頂いています。

### 進学について

平成十六年から就職と進学の割合が逆転して、進学する生徒が増えました。昨年度は七十七名の生徒が四年制大学に入学しています。

### 進学方法は

本校からの進学方法は指定校推薦、一般推薦、AO入試で受験する生徒がほとんどで、一般入試で受験する生徒はわずかです。大学等では商業高校などの専門高校向けの入試を行っている大学が多くあります。そのほとんどが資格取得を条件に入れています。

### 資格

資格にはその資格を認定する団体があり、その団体によって難易度が異なります。

全国商業高等学校協会(全商)、全国経理学校協会(全経)、日本商工会議所(日商)の他に経済産業省など国が認める資格があります。

### 進学や就職に有利な資格

日商簿記検定二級・全商簿記検定一級  
経済産業省主催基本情報技術者試験  
実用英語検定二級などです。

それぞれの資格は大学の専門科目で到達目標となるものです。

### 就職後も仕事に生きてくる資格

現在の社会では必ずコンピュータを使います。また会社では経理を把握するために簿記を知らなければいけません。そのため、商業高校として卒業後、即戦力として働いていけるような力を身につけさせるために、資格取得を目標として取り組んでいます。

## 商業科目の紹介

### 簿記

企業は利益を得ることによって、社員の給料や会社を発展させるための経費を作り出すことができます。しかし、その状態を知る手段が必要になってきます。そのため企業は簿記を使って企業のすべての活動を数字で記録し、計算し、整理します。

日商簿記2級は全商簿記1級と同様に大学の推薦入試の基準検定になっています。また上級検定である日商簿記1級を取得すると税理士試験を受験する資格を得ることができます。日商簿記2級は税理士・会計士の第一歩となります。

### 情報処理

コンピュータによる情報処理に関する知識・技術を学びます。コンピュータの仕組みや言語の能力や会社などのオフィスでコンピュータソフトを使い、その業務内容に適したシステムを考えることができる知識を学びます。特にビジネス情報科1年生ではプログラム言語について学び、ビジネス科ではエクセルなどの表計算ソフトの利用方法を学びます。2年から自分の目的に合わせたコースによって学習内容が変わります。

### マーケティング

商品を販売するとき、その商品の商品名や原料などの知識を持っていないと商品は売れません。また、商品の陳列方法やお客様に対しての接客方法、商品の包装などの技術も必要になってきます。また消費者がどのような商品を望んでいるかなどを知る必要があります。そういったことを学んで日本商工会議所主催販売士検定の2級、3級にチャレンジしています。

# 土岐商で学んだこと

近藤 亮 平成 20 年度ビジネス科卒業  
ウエイトリフティング部 インターハイ 2 位 トヨタ自動車(株)

私は土岐商業高等学校で、「考える」こと。「努力」すること。「結果」を出すことを学びました。

私は土岐商に入学して、兄が所属していたウエイトリフティング部に入部しました。兄は高校で全国大会に出場していました。私はその姿に憧れていました。入部したからには上を目指して、全国で活躍したいと思いました。部活動は中学とは違い、練習時間も練習量も多量でも大変で慣れるまでには時間がかかりました。でも自分のやりたいことをやれているので、とても楽しく練習をすることができました。

しかしみんなと同じ練習をしていても自分より強い選手はでできます。センスや体力の違いで、記録に差が出てきてしまいます。練習を楽しくやっているだけでは成長はできないとわかりました。どうすれば全国で通用するような選手になれるのか、全国で活躍するような人は、どんな練習をしているのかを「考える」ことが大切です。「考える」ことによって、自分がやらなければいけないことがはっきりとわかります。

「努力」することです。自分より強い人を目指すなら、その人より多く練習をしたり、つらい練習をすれば越えられるはず。練習量を増やすなら、練習が終わってから残っていることができます。つらい練習は、自分をどこまで追い込むことができるかです。みんなとやる練習では一定量をこなせば、手を抜いても終わってしまうのではないのでしょうか。だから一人で練習をする時間を作ること

も大切だと思います。誰も見ていない時に練習がやれるかやれないか、大きな違いだと思います。さらに手を抜かずにできますか。人の見ていないところでも頑張れることが一番素晴らしい「努力」だと思います。そして「努力」しているときにも「考える」ことは必要です。もつと効率のよい練習方法を考えたり、力の付く練習を考えたりすることも大切です。何も考えずにやる練習には意味はありません。自分のどこを鍛えているのか。意識するだけでも効率は大きく違います。ただの作業としてする練習は無駄な努力であり、少ない部活の練習で必要のないものです。今の自分のレベルを上げるにはどうすればいいのかを常に考える必要があります。

この「考える」こと。「努力」することは「結果」に結びつきます。十分な時間を努力することができれば、納得できるような結果が出ると思います。自分の納得できない結果ならば、まだ努力することができたということです。自分の努力が足りなかったということです。部活動だけではなく勉強でも同じことが言えます。検定の勉強方法を考えて、どれだけ家庭学習をして問題を解く努力をできたのかで、結果の合格不合格は決まるのではないのでしょうか。授業を受ける態度や姿勢、宿題を出されて、家でやってこられるか、テスト前の取り組みや勉強時間で、成績は決まっています。

この「考える」こと「努力」すること「結果」が出ることは、当然就職してからも大切になると思います。自分の任せられた仕事やるにしても「考える」ことは大切です。もつと早く仕事をするにはどうすればいいのか。

もつと多くの商品を作るにはどうすればいいのか。役職が低くても良いアイデアがあれば活用してくれるはずです。

さらに自分のやる仕事は完璧にできるようにしなくてははいけません。最初はうまくできなくても、人に聞いたり、できるまでやりつらして「努力」をしなくてははいけません。できるようになったら作業時間を早くしたり、失敗を少なくするなど、その仕事のプロになれるように「努力」することが必要です。

そして「結果」は自分で考えて努力してきた姿を評価してもらい給料の増加や昇格に繋がるのではないのでしょうか。その姿が悪ければ反対の評価を受けることになります。現在の経済の状況はよくありません。これから良くなるのか悪くなるのかわかりませんが、ただ作業する会社の歯車のような人間は、会社にとって必要ありません。「考える」ことができて「努力」をして「結果」まで出せる人間なら大丈夫だと思います。

「考える」だけで行動しなかったり、考えずに「努力」をしても「結果」は出ません。この二つをバランスよくできて初めて「結果」が出ることを土岐商で学ぶことができたので、このことをいつまでも忘れないようにしたいと思います。